

令和5年度 学校評価報告書

丹波篠山市立岡野小学校

校長 細見 康彦

1 学校教育目標等

確かな学力と豊かな心をもった児童を育成
～ みんなの夢をみんなで応援しよう ～

2 今年度の重点目標

- (1) 豊かな人間関係や人権感覚の育成に努め、安全安心な学校づくりを推進する。
- (2) 言語活動を充実し、確かな学力の定着を図る。
- (3) 生活習慣の定着と教育環境を充実する。
- (4) 家庭や地域との連携を深め、「ふるさと岡野」を誇りに思う態度を育む。

3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
保護者・地域との連携	学校・家庭・地域と連携強化した安全で安心な学校づくりができたか。	A	学校運営協議会委員による校内安全点検により危険箇所の改善、登下校の見守りや下校時の迎えなどの協力者の増加、交通安全教室への保護者の参加、地域の防災訓練への参加等、連携を強めることができた。
	多文化共生教育の充実ができたか。	B	外国人児童の増加により、児童が共生する心を育てるための機会を持ったり、教職員の研修を実施したり、理解を図った。
学習指導	ことばの力を高める学習活動の充実が図れたか。	A	3年間の研究の成果を土台に、国語科を中心とした活用・表現力の研究に取り組めた。講師を招聘しての授業研究や研修会を実施し事後研究会が充実できた。来年度に研究発表会を実施し、その成果を発表する予定。
	基礎的・基本的な学力の定着が図れたか。	A	少人数指導や同室複数指導により、児童の困り感や課題を見つけ教師間で情報交換しながら、きめ細かな指導を行ってきた。その成果が学力テストで現れている。
	キャリア教育がなされたか。	A	学校運営協議と連携して「夢プロジェクト」を企画し、本校卒業生など、5回の講演を聞いたり、一緒に活動できたりした。篠山産業高校と連携して、体験活動が深まった。
生徒指導	生活習慣の定着や児童の内面理解に基づいた生徒指導の充実が図れたか。	B	いじめや問題行動など、関係機関と連携して組織的な指導に取り組んだ。今後も学校全体で児童の様子を見取り、保護者と情報を共有して、早期発見・早期対応に努める。「岡野っ子憲法」を改訂し、児童への意識

			を高めることができた。
ふるさと教育	地域素材や人材を活用したふるさと教育に取り組めたか。	A	学校運営協議会を中心に「岡野っ子応援隊」を募り、学習のサポートにも参加していただいた。黒豆学習、オオムラサキ、岡野隕鉄、新しく「灰小屋ウォークラリー」も実施することができた。

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

<p>今年度の新たな取組として、「夢プロジェクト」と「ふるさと学習(灰小屋ウォークラリー)」が挙げられる。学校運営協議会委員としても関わることができて、充実した活動になってよかった。また、今年度より篠山産業高校との交流をたくさん持つことできて、小学生にとっても高校生から学ぶことはたくさんあると感じている。</p>

(2) 総合的な評価(意見・感想)

<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、5・6年生児童会6名との意見交換を行った。その際、6名の児童が学校運営協議会委員の前で自分の考えを堂々と発表している姿に感心されていた。その中で、岡野小学校の校区の自慢について、盃山の話が多く出され、活用できないか検討する。 ・低学年から高学年が小学校に在籍している意味を考えて、お互いがふれあいを通して学ぶ必要がある。縦割り班活動など、全校生で楽しく生活できる場を設定していく必要があると感じる。 ・岡野小学校の児童は、話しかけると良く反応をしてくれるところがうれしい。
--

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会主催行事である「漢字検定」は、地域からの参加者もあり、昨年度より受検する人数が増加した。来年度もさらに、地域住民にも呼びかけを積極的に行い、引き続き行っていきたい。
保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの中で、ごく少数ではあるが朝食を食べてこない児童がいる。朝ご飯を食べてくることについて習慣化していく必要がある。また、食の楽しさを知る活動を行ってほしい。例えば、ランチルームでみんな楽しく話をしながら食べる機会を作るなどの仕掛けが大切である。 ・宿題は必ず提出する習慣を小学生で身に付けてほしい。将来生活していく上で大切であることから、保護者と連携して進めてほしい。
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校は楽しい」と回答している児童が多いのは、学校・家庭・地域の連携により、学校での生活に安心感を持っているからと考えられる。さらに、自己肯定感を高め、学校が楽しいと感じられるよう支援を行ってほしい。